

鎌 総 第 619号

令和3年(2021年)5月20日

鎌倉市議会議長 様

鎌倉市長 松 尾



文書質問への回答について

標記の件につきまして、別紙のとおり回答します。



事務担当

総務課総務担当(内線2242、2243)

| | |
|--------|-------------------|
| 議会受付番号 | 文書質問第 1 号 |
| 質問者 | 長嶋 竜弘議員 |
| 答弁する者 | 市長 (共生共創部 文化課) |

文書質問に対する答弁書

鎌倉市議会基本条例第7条第3項の規定に基づく文書質問第1号の質問について、次のとおり答弁いたします。

1 質問の内容

東京新聞4月30日の『憲法記念日の公演に憲法学者・木村草太さんの起用 NG 鎌倉市が「9条に言及する懸念」で拒否』の記事が話題となり、市民の皆様から大変多くのご批判のお声を頂いているところである。

記事には、『神奈川県鎌倉市が2018年の憲法記念日に開いた講演会で、公募で選ばれた市民でつくる実行委員会が提案した憲法学者の木村草太東京都立大教授（当時は首都大学東京教授）の講師起用を、「政治的だ」という理由で市側が拒否していたことが分かった。』と記載されている。

この件について、憲法学者の木村草太教授の講師起用を断った事の一連の経過詳細と理由をご説明頂くと共に、多くのご批判のお声が上がっている事について、松尾市長はどのように考えておられるのか、見解を伺いたい。

2 質問の理由

GW期間中の出来事であるが、大変多くのご批判のご意見が出ているので、議員として早急にお伺いする必要があると共に、説明責任を果たす必要性があるのでお伺いする。

3 答弁

平成30年度「憲法記念日のつどい」の講師選定経過について説明します。

「憲法記念日のつどい」は、毎年、憲法記念の日に鎌倉市が公募の市民により構成される平和推進実行委員会とともに開催（主催は市、企画・運営は平和推進実行委員会）するイベントで、講演会等を通じて、市民が憲法の大切さについて考える機会を提供しようというものです。イベントの内容、講師の選定等は、平和推進実行委員会において、実行委員の協議により決定しており、市は事務局の立場で関わっています。

①選定理由を含む経過詳細について

平成29年12月21日に開催した「平成29年度第8回平和推進実行委員会」におきまして、平成30年度に行われる憲法記念日における事業「憲法記念日のつどい」の講師とし

て、実行委員から候補者3名が挙げられました。

平成30年1月17日に開催した「平成29年度第9回平和推進実行委員会」にて、「憲法記念日のつどい」は、市の主催(企画・運営は平和推進実行委員会)であることから、その内容は、中立性・客観性を保つことが求められ、それを前提にして、市民が憲法の大切さについて考える機会を提供すべきものと考え、そして講師の選定についても、政治的な中立性、公平性といった立場からの配慮が必要となることなどから、前回(第8回)委員会で挙げられた複数の講師候補者に講師をお願いすることは難しい旨を実行委員会委員に対して、事務局である市(文化人権推進課(当時))から伝えました。

その結果、第8回平和推進実行委員会で挙げられた候補者と、第9回平和推進実行委員会ですらに実行委員から提案のあった候補者と併せて、実行委員会が優先順位を決め、市担当が上司(当時の文化人権推進課長)に相談することとなりました。

その後、文化人権推進課を所管する経営企画部(当時)内でも協議を行い、憲法に関しては、例えば、改憲、護憲のような世論を二分する議論に及ぶ可能性があり、市が一方の思想を普及しようとしているとの誤解を受けることがないように、政治的中立性に配慮して実施する必要性を改めて確認し、平和推進実行委員会にもその旨を伝え、実行委員会において改めて協議を経て講師を決定いたしました。

② 御批判に対する見解

平和推進事業の実施に当たっては、毎年度、実行委員会において事業内容について議論のうえ、実行委員会が意思決定を行ってきたものであり、主催者である市としては、政治的に中立であることを前提に、事務局も、時に意見を申し上げながら事業を行ってまいりました。

講師の選定は、実行委員会から御提案いただいた複数の候補者の中から、最終的に実行委員会の中で結論を出しています。そして毎年、事業報告、決算報告を実行委員会に行うこととしており、平成30年度の事業についても、実行委員会に報告を行い、承認をいただき、完結している事業です。

今回の講師選定の経緯は、①に記載したとおりで、その判断は適正であったと考えています。しかしながら、御質問でも御指摘いただいているとおり、市民の皆様から多くの御意見等をいただいている様に、多様な意見を尊重することも考え、今後は、政治的中立性に配慮して、単独ではなく複数の講師をお招きして多様な意見を聞くような場にするなど、工夫することも考えてまいります。